

岩手県 雫石商工会青年部 にぎわう街の新オアシス 空き店舗を改装、交流施設オープン

当商工会青年部(相沢潤一部長)は7月19日、町内中心商店街の活性化を目的とした交流施設「まちの駅ぶらっと」を開設した。空き店舗を改装したもので、10種類の職業体験教室を実施。参加者に商工業の魅力を味わってもらえらいた。施設は上町商店街の一角にあり、約70㎡の広さ。電気店や大工、塗装業などプロが揃う青年部のメンバーが力を合わせて改装した。

商店と町民の交流を目指す「しずくいしタウン・ツーリズム」計画に基づくこの事業は、体験教室が柱で、9月から魚のさばき方やコーヒーの入れ方など、多彩な職業体験教室を開く。

野菜や果物、山菜など、新鮮野菜の産直コーナーのほか、商工会女性部らによる手づくりアクセサリーなども販売。写真や絵画の展

示会や星空映画会なども予定しており、町民が「ぶらっと」立ち寄る願いを名前に込めた。

町内中心商店街の空き店舗数は5月現在で84店のうち27店と32%を占め、年々増加傾向にある。郊外型大型店の進出が主な要因で、客離れが進む中心街に人を呼び込もうと商店街の若者が立ち上がった。3年計画で段階的に空き店舗の改装を行い、活動場所を増やす。将来は改装した店舗を個人や団体に貸し出し、空き店舗の解消を目指す。相沢部長は「雫石は農業や観光が脚光を浴びることが多いが、商工業も頑張っている。町民と商店街のかけ橋となるよう努力したい」とメンバーともども張り切っている。

体験教室は土、日曜の開催、産直などの販売コーナーは木、金、土、日曜の週4日営業、開店時間は9～17時。



宮崎県 五ヶ瀬町商工会青年部 「まごころ宅配事業」が好評 高齢者の買物代行

当商工会青年部(伊藤訓部長)は、日常の買物に支障をきたしている高齢者の買物を代行する「まごころ宅配事業」を実施している。社会福祉協議会のデイサービス利用者が対象で、「便利になった。注文を通して若者と交流もできる」と好評だ。



午前中、当番会員が町福祉センターを訪れた高齢者から受注し、商店街を回って商品を調達。午後、同センターに届ける。日用品、生鮮食品、衣料など、町内で調達できるものは何でも扱っている。

FAXは高齢者に抵抗感があるため、直接「ご用聞き」に向かう方式を採用。部員数が少ないため、デイサービス利用者に絞り、社協の協力で事業開始にこぎつけた。

部員らは「町の商店街を支えてくれたお年寄りへの恩返し。今後はより多くのお年寄りが利用できるように考えていきたい」と話している。

富山県 福岡町商工会女性部 地元産「ふきがし」をどうぞ 町の菓子店主らと意見交換

当商工会女性部が、地元の素材を生かして福岡のみやげ品を作りたいと、地元のフキで作る「ふきがし」を考案。5年前から試行錯誤を繰り返し、2年前に販売を始めた。砂糖で甘く煮詰めたフキにグラニュー糖をまぶした和菓子で、ほろ苦さと甘さがマッチし、抹茶にも合うと評判も上々だ。



女性部員の大野厚子さんは「ミカンやオレンジの皮を使ったお菓子からヒントを得た」と振り返る。販売している「雅楽の館」には、山菜シーズンになると問い合わせもくるようになった。

今年も、女性部の部員らが町保健センターに集まってフキの加工を行い、見学に訪れた町の菓子店の店主らと意見交換した。大野さんは「ゆで加減が難しい。失敗するとき綺麗な緑色が出ない」と、作り方のコツを説明。町菓子工業組合(鈴木義数組合長)のメンバーも見学し、「シンプルな発想がいい」「こんなに手間がかかるのか」などと話していた。

今年作ったふきがしは、乾燥させた後、6月から販売している。約40g入りで250円。大野さんは「当町ならではの素朴な味を多くの人に知ってほしい」と話している。

山梨県 韮崎市商工会 エコステーションとリサイクル店融合 サービス拡大、環境意識向上めざす

当商工会が市内本町の空き店舗に開設した「エコステーション」が6月21日、地元のリサイクルショップと融合してリニューアルオープンした。ショップ経営者に管理を委託、回収機が発行するチケットの特典サービスも拡大し、ショップとステーションの相乗効果で環境意識向上を目指す。

エコステーションは2001年末、コンビニエンスストアの空き店舗に開設された。空き缶を入れると抽選で加盟店の割引券が当たる空き缶回収機、環境に関するパネル展、休憩スペースなどがあったが、無人だったため、故障や用紙切れなどへの対処が遅れたり、休憩スペースの利用状況がわからないなどの問題があった。

昨年秋から当商工会で有効活用法を協議し、



店内の様子と「空き缶怪獣」

今回のリニューアルとなった。管理するのは、リサイクルショップ「ニュー・デール」(宝方満博代表)。衣類や日用雑貨、スポーツ用品など幅広いリサイクル品を取り扱い、空き缶回収機は入口付近に設置した。

新たなサービスとして、割引サービスを使わずに回収機の割引券を5枚集め、割引対象の加盟店でスタンプをもらえば、抽選で折りたたみ自転車や電動スクーターが当たる。

オープニングイベントでは、「親子で作ろう! 空き缶怪獣」と題したイベントで来場者が持ち寄った空き缶約200個を使い、高さ約2mの「怪獣」を製作した。

また、空き缶10個と交換で、卵やエコバッグなどの生活用品をプレゼントするサービスのほか、トマトやトウモロコシ、レタスなど野菜の即売も行われ、大勢の人でにぎわった。

スクランブル

石川県 奥能登広域商工会女性部

能登空港乗客を「つぶら人形」で歓迎

地域の手作り民芸品を手渡し

鳳珠郡5町村商工会(能都、内浦、穴水、門前、柳田)の女性でつくる奥能登広域商工会女性部は能登空港開港の7月7日、同女性部が開発した民芸品「つぶら人形」を第2便の乗客に贈ることを決め、6月24日に柳田村商工会館で人形を包装し、出迎え準備を行った。

15年ほど前、柳田村の女性グループが地域の特産品にしようと創作した「つぶら人形」は、色とりどりの布を使った手のひらサイズの民芸品。かつて農家が子守りに使ったわら作りのかご「つぶら」の中に、赤ん坊がスヤスヤ眠る姿をかたどったものだ。

全国展開できる特産品づくりを探っていた同女性部は昨年、作り方を広めるために講習会も開いており、今回の空港開港を記念してこの地域色豊かな民芸品を贈り、乗客に歓迎の気持ちを表すことにした。

製作は町村単位で手分けし、女性部員が歓迎の言葉を書いたしおりも付け、「1人ひとりに歓迎の気持ちを伝えたい」と代表5人が空港ターミナルに向かい乗客に人形を手渡した。



青森県 野辺地町商工会青年部

ハマナスが咲く街道づくり

環境整備に汗

このほど、「はまなすが咲く街道づくり運動」を進めている当町商工会青年部OB会(熊谷豊会長)は野辺地町の国道

279号沿いにハマナスの苗木を植え、田名部道にある「はまなすライン」の石碑周辺でも、ハマナスの手入れや草刈りなど、環境整備を行った。

国道279号は1967年、県道から国道に昇格し、別名「はまなすライン」とも呼ばれており、作業には当青年部、十和田県土整備事務所も協力した。

木明地区の国道沿いでは会員が周囲の枝や草を刈り、土を盛って、ハマナスの苗木100本を植えた。同地区の植栽は4年目で、今年4月の「むつ湾東岸美浜推進DAY」の記念植樹と合わせ、ハマナスは計550本となった。



熊本県 五和、苓北、天草、河浦、新和町商工会

「お出掛けガイド」完成

チャンポンの天草、情報満載

天草地方の食堂で、昼食の定番メニューとして人気を誇るチャンポンを特集したユニークな「お出掛けガイド」ができた。

天草といえば、豪華な海鮮メニューが注目されがちだが、「肩ひじ張らない観光地ならではの庶民性あふれる味も楽しんでほしい」というねらいで、五和、苓北、天草、河浦、新和の天草下島5町の商工会がタイアップして作製した。

「絶対食べたい!」と銘打ち、各町から「選抜」された27軒の食堂自慢のチャンポンが勢揃い。「具だくさん」「鍋焼き」「スタミナ」など庶民性あふれるチャンポンを、カラー写真と各食堂の地図入りで「ちゃんぽん札所」として6頁にわたって紹介している。

A5判、33頁の同ガイドは、「ちゃんぽん札所」の記事のほか、観光マップやお薦め周回コース、宿泊、イベントなどの情報も満載している。5,000部作製し、県内外の観光施設などに配布。



香川県 国分寺町商工会

買物バッグを全戸に配布

おしゃれにごみを減量

ビニール袋をもらわず、環境に優しい買物をしよう。当商工会(東城正和会長)は、ごみ減量をねらい、買物バッグ7,900枚を作製。町に寄贈し、7月上旬、全世帯に配布した。

買物袋の作成・配布は、当商工会が町から委託を受けて行っている町商品券の事業を広く知ってもらい、環境問題にも役立てようと、還元事業の一環として始めた。

ごみ減量を目指す買物バッグの作製は、満濃町、三木町などが行っているが、全戸に配布するのは県内でも珍しい。

デザインはエンジ色の地に町のマークをあしらった大判サイズ。買物の際に持参すれば、レジでビニールをもらわずに済む。繰り返し使用した後は、焼却しても有害物質が出ないポリプロピレン製。

「持ち運びに抵抗のない、おしゃれなデザインに仕上がったので、少しでも多くの人に使用してもらえれば」と考えている。



広島県 下蒲刈町商工会

レンタサイクルで島巡り

甘夏シャーベットも併せてPR

当商工会は7月1日から、観光客に島をのんびり巡ってもらうため、レンタサイクルの貸し出しを始めた。

下蒲刈町は、三之瀬地区に朝鮮通信使資料館やあかりの館などがある「松涛園」、蘭島閣美術館などの文化施設があり、梶ヶ浜地区には、貝と海藻の家や「姫ひじきの塩」作りの体験施設などのある「観松園」、海水浴場があるが、両地区は約2キロも離れている。バスの便も少なく、観光客から貸自転車要望が多かった。

貸し出し場所の特産品直売所「海駅 三之瀬」では、開発した甘夏シャーベットを、ふるさと産品としてPRしていく。

レモン号や甘夏号などと名付けた自転車は、当商工会が運営する三之瀬地区の海駅に24インチと26インチを5台ずつ置いた。特産の

ミカンやユズなどを使ったジュース1本、ミカンのかりんとう1袋の土産付きで4時間以内800円。土産なしは500円。受付は午前9時から午後3時までで、年中無休。約2時間半かけて、瀬戸内海を眺めながら島を1周(約16キロ)するのもお薦めだ。

町内で収穫した甘夏の手作りシャーベット(1個50円)は、着色料や甘味料を使わず果汁を凍らせ、甘夏独特のほろ苦さが残っている。また、あかりの館にちなんで、紅白のセットなど22種類の和ろうそくの販売も始め、特産品の充実にも力を入れていく計画だ。



後方は特産品売り場

情報